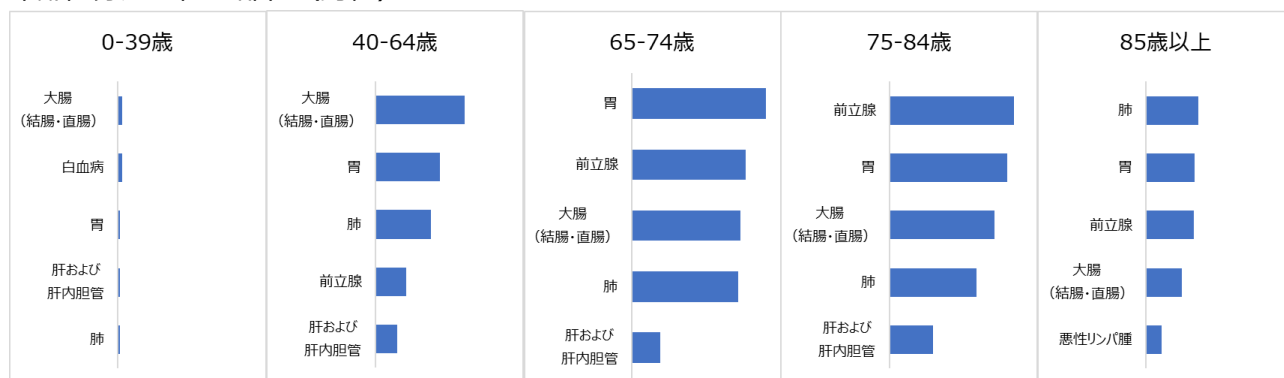
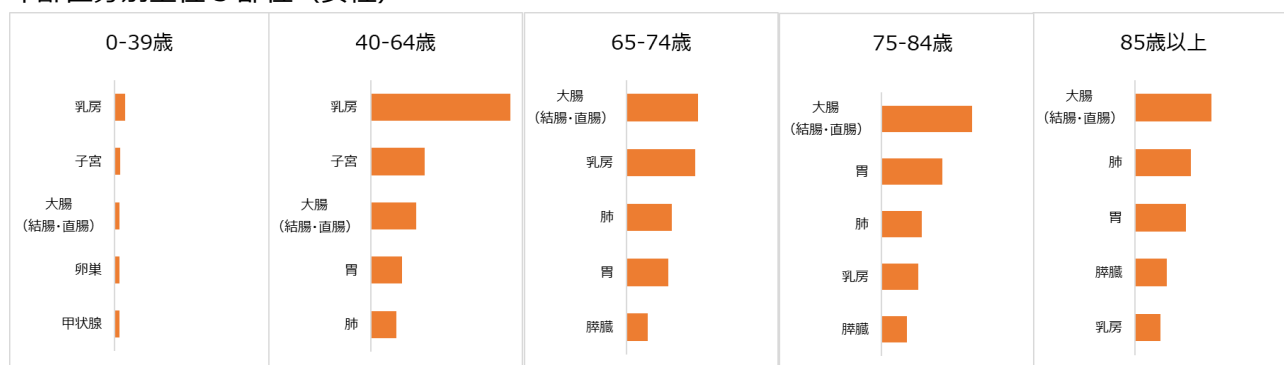


## 全国がん登録から見た鳥取県のがん罹患の現状（2018年）

### 年齢区分別上位5部位（男性）



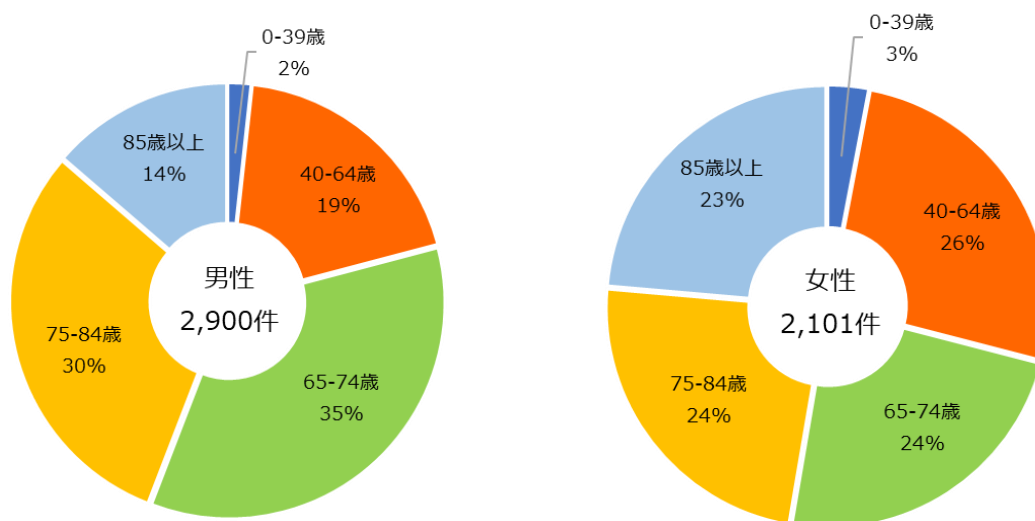
### 年齢区分別上位5部位（女性）



男性の0-39歳代では、大腸、白血病が最も多く、次いで胃、肝、肺。40-64歳代では、大腸が最も多く、次いで胃、肺、前立腺、肝の順であった。65-74歳代では、胃が最も多く、前立腺、大腸、肺がおしなべて多く、次いで肝、75-84歳代では、前立腺、胃、大腸が多く、次いで肺、肝、85歳以上では、肺が最も多く、次いで胃、前立腺、大腸、悪性リンパ腫の順。

女性の0-39歳代では、乳房が最も多く、次いで子宮、大腸、卵巣、甲状腺の順。40-64歳代では、乳房が最も多く、次いで子宮、大腸、胃、肺、65-74歳代では、大腸、乳房がおしなべて多く、肺、胃、脾臓、75-84歳代でも大腸が最も多く、次いで胃、肺、乳房、脾臓、85歳以上では、大腸が最も多く、次いで肺、胃、脾臓、乳房の順。

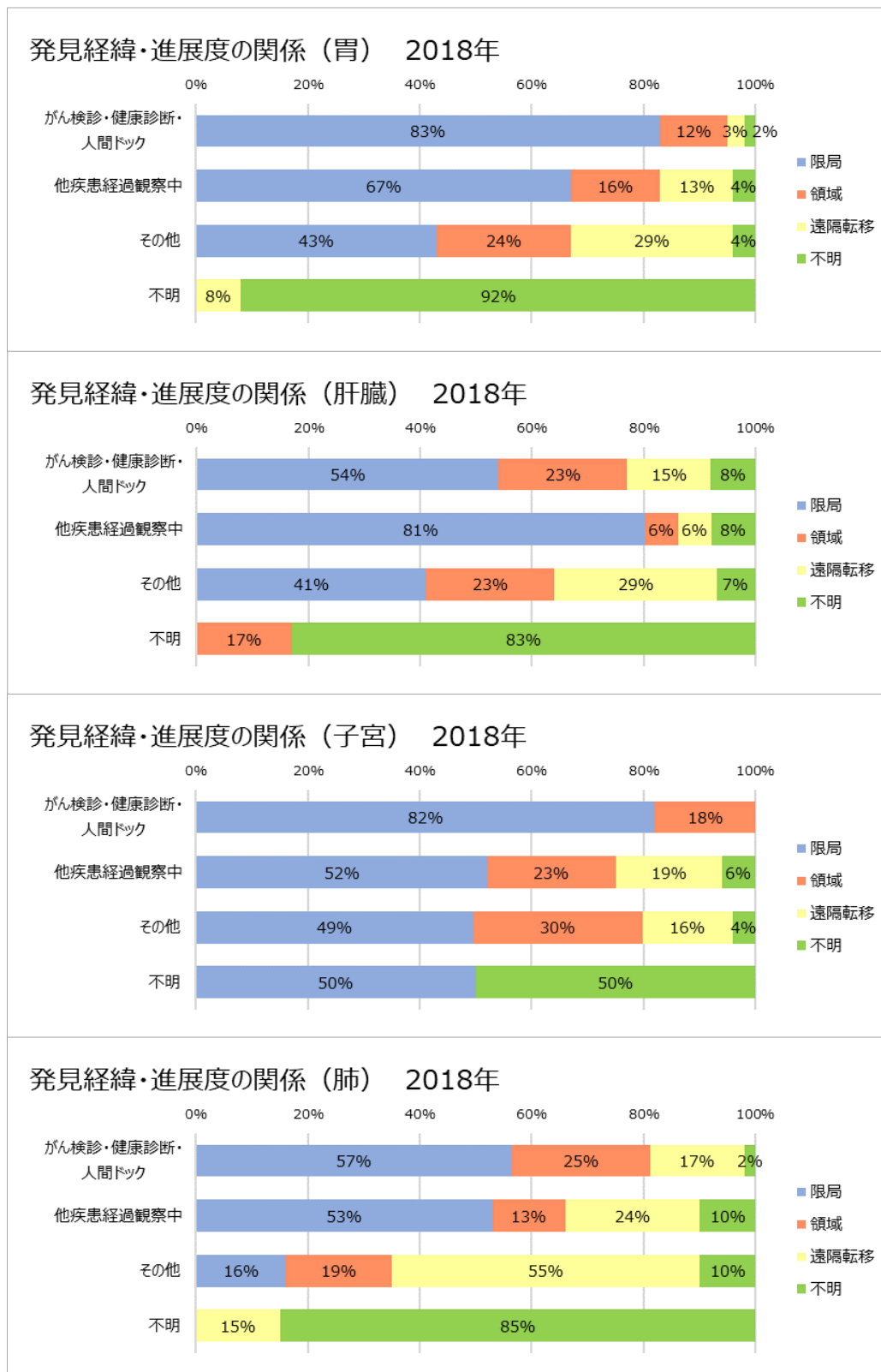
### 年齢5区分割合（%）



## 発見経緯と進行度の関係から、がん検診・人間ドック・健康診断などのがん予防効果の疫学的検証

ほとんどの部位でがん検診・人間ドック・健康診断などによるがん発見例において、いわゆる早期がんに相当する限局割合が多く、遠隔転移の割合が少ないことが認められていますが、肝臓、肺においては遠隔転移の割合が15%、17%と他の部位に比べ高い値を認めています。

限局割合は、がん検診・人間ドック・健康診断によるもので胃が最も高く83%、つづいて子宮が82%、他疾患経過観察中によるものでは肝臓が81%と高い値を認めています。

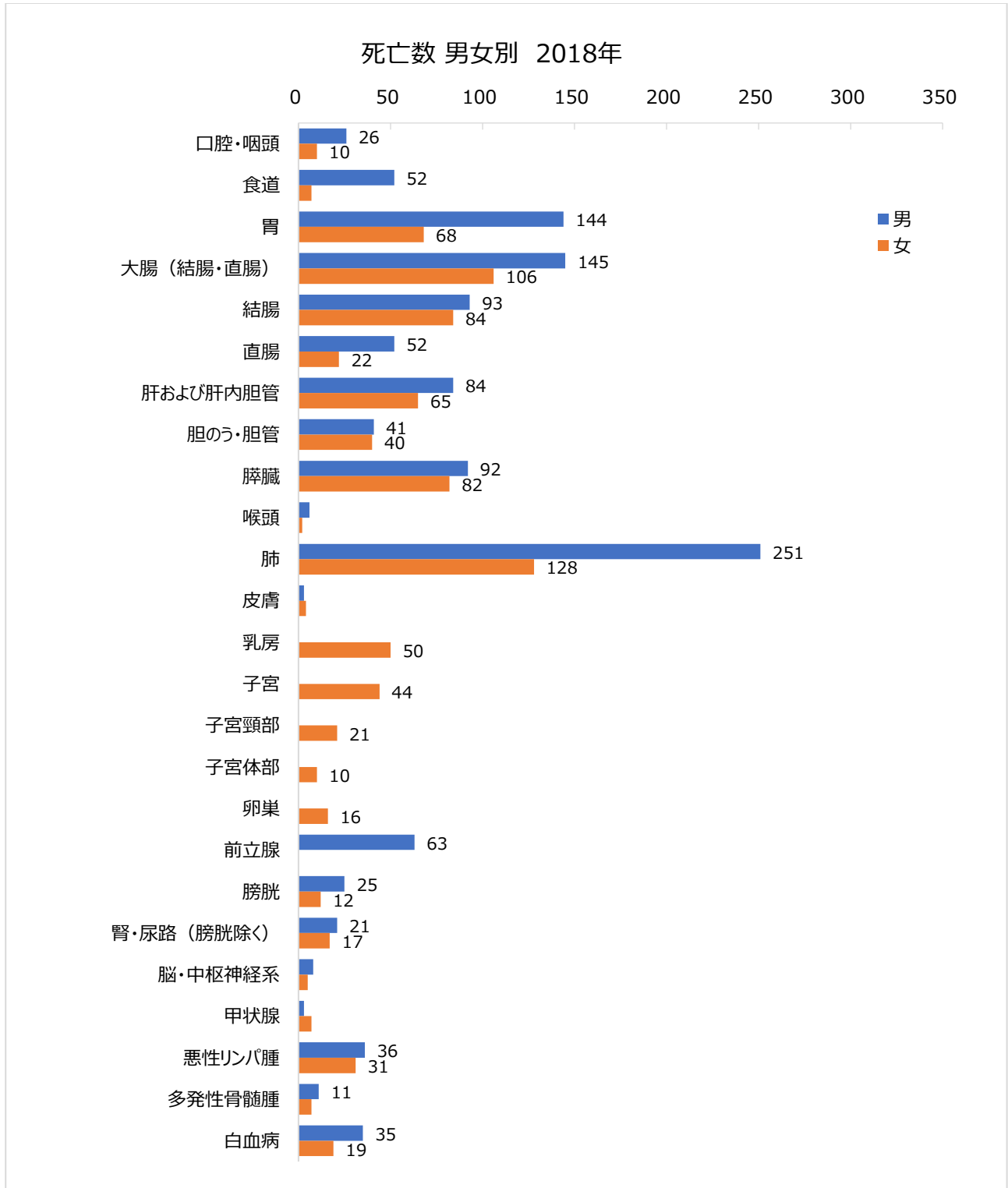


\* 参考資料 \*

### 死亡統計から見た鳥取県のがん死亡数の現状

鳥取県において、がんを原因として死亡した者の数は、男性1,085人、女性766人、合計1,851人となっている。

部位別には、男性は肺（251人、23.1%）が最も多く、次いで大腸（145人、13.4%）、胃（144人、3.3%）の順となっている。また、女性では肺（128人、16.7%）が最も多く、次いで大腸（106人、13.8%）、膵臓（82人、10.7%）、胃（68人、8.9%）の順となっている。



# 年齢調整死亡率 全国比較 2018年

